

		異常確認の有無	工事との関連性	対策の検討
目視観察結果	目視観察の結果、工事に伴う異常は確認されなかった。			特になし
水質調査結果	基本・補助監視地点	基準値 St.1～4:SS=7mg/l St.5～7:SS=11mg/l	・基準値超過日の工事实施状況は、浚渫作業や大型土のう帆布・移設、石材運搬・投入などがあったが、工事箇所周辺の監視地点からは濁りが観測されていないことから、工事による影響ではないと考えられる。 ・基準値を超過した要因は、21日～23日の降雨(合計降水量60mm)による流入水路部からの濁水の流入、強風・波浪や低潮位時における底質の巻き上げなどが影響していると考えられる。	
	工事の濁り監視地点	基準値 St.8～18:SS=11mg/l	・基準値超過日の工事实施状況は、浚渫作業や大型土のう帆布・移設、石材運搬・投入などがあったが、工事箇所周辺の監視地点からは濁りが観測されていないことから、工事による影響ではないと考えられる。 ・基準値を超過した要因は、前日までの降雨(降水量5mm)による流入水路部からの濁水の流入、強風・波浪や低潮位時における底質の巻き上げなどが影響していると考えられる。	
	流入水路部調査地点	・SS = 11mg/lを超えた回数: St.A = 55回(12～94mg/l)、St.19 = 49回(12～272mg/l)、St.20 = 48回(12～254mg/l) ・St.Aでは1日～11日、13日～30日に11mg/lを超えた値が観測された。最高値は18日午前(94mg/l)に観測された。 ・St.19では1日～11日、13日～30日に11mg/lを超えた値が観測された。最高値は18日午後(272mg/l)に観測された。 ・St.20では1日～11日、13日～30日に11mg/lを超えた値が観測された。最高値は22日午後(254mg/l)に観測された。	・流入水路部からの降雨や生活排水などの濁水流入や、波浪による底質の巻き上げなどが影響していると考えられる。	
	流入水路部調査地点(St.A, St.19, St.20)は監視地点ではないため、基準値は設定されていない。			
気象概況	監視地点において異常値が観測されたのは、2, 24, 25日であった。 ・2日は北よりの風が強く(最大風力3)であった。 ・18日は風が強く(最大風力5)であり、降水量は27mmのため、流入水路部周辺の調査地点のみ計測した。 ・22日は風が強く(最大風力5)であり、降水量は47mmのため、午後からは流入水路部周辺の調査地点のみ計測した。 ・24日は南東ないし南西よりの風があり(最大風力2)であった。 ・25日は東ないし南東よりの風があり(最大風力2)であった。 (最大風力は調査員による現場観測値)			
補足項目(新種等)調査結果	・H18年度環境監視計画に基づく「補足項目(新種等)」に関する年間調査計画は以下のとおり。 カミルモ類監視調査: H18年4月～(原則四季:年4回) ニライカナイコウサ調査: H18年4月～(原則四季:年4回) オサカナヤドリガイ監視調査: H18年4月～(原則四季:年4回) オキナワヤマガニ生息監視調査: H18年4月・8月・9月・H19年2月 ・結果についてはホームページにて公表中。			
工事实施状況	・浚渫作業(浚渫工事): 1～4, 6～11, 13～17, 20～25, 27～30日(合計25日) ・大型土のう帆布・移設(D護岸工事): 1～6, 8～11, 13～21, 23, 25, 27～30日(合計25日) ・石材運搬・投入(C護岸工事): 1～4, 6～11, 13～17, 20～25, 27～30日(合計25日) ・石材運搬・投入(D護岸工事): 3, 6～8, 11, 13～16, 19～20, 22, 24～25, 28～30日(合計17日) ・潜水探査(浚渫工事): 26日(合計1日)			